

# G7デジタル・技術大臣会合/G7広島サミット

---

2023年6月28日

## 名称

G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合

英語：G7 Digital and Tech Ministers' Meeting in Takasaki, Gunma

## 開催日程、場所

令和5年4月29日（土）、30日（日）

群馬県高崎市 ※宿泊は伊香保温泉又は高崎市内

## テーマ

社会全体のデジタル化、「信頼性のある自由なデータ流通（DFFT）」の推進、イノベーション推進に向けた新興技術、デジタル競争、責任あるAIとAIガバナンスの推進、安全で強靱性のあるデジタルインフラ、インターネットガバナンス

## 参加国等

議長国（日本：デジ庁、総務省、経産省）、G7（仏、米、英、独、伊、加）

EU、招待国（印、尼、宇）、国際機関（OECD、ITU、WB、UN、ERIA）

## 関連する取組

産業界等の参画によるマルチステークホルダー会議の開催に加え、我が国のICT技術などを各国にアピールし今後の国際展開・国際連携を促進するため展示等を行うとともに、地方創生に貢献するため各種イベント等を実施



会合会場：Gメッセ群馬

## 1. 閣僚宣言 (本文)

- G7は、人間中心で信頼できるAIを推進し、AI技術がもたらす利益を最大化するための協力を促進
- G7メンバー間で異なる場合があるAIガバナンスの枠組み間の相互運用性の重要性を強調
- 「AIガバナンスのグローバルな相互運用性を促進等するためのアクションプラン」を採択
- 国際技術標準の開発・採用を奨励し、**中小企業・スタートアップ・学术界等の全てのステークホルダーの参画を支援**
- **AI政策と規制が民主主義的価値観に基づくべきことを再確認**
- **生成AI技術が顕著になる中で、生成AI技術の持つ機会と課題を早急に把握し、技術が発展する中で、安全性と信頼性を促進し続ける必要性を認識**
- OECDやGPAIなども活用し、**AIガバナンス、知的財産権保護、透明性促進、偽情報への対処、責任ある形で生成AIを活用する可能性**について、**G7における議論を行うための場を設ける**

## 2. 議長国会見における松本総務大臣コメント

- AIガバナンスの**相互運用性を促進する重要性**についてG7で**認識を共有**。
- 生成AIについて、その**機会とリスク**について議論を行い、**G7における議論を行うための場を早急に設けることについて合意**。
- **G7として議論を加速し、認識を共有し、G7として向かうべき方向を示して、力強いメッセージを発信していくべき**

# G7広島サミットの概要

## 日程

2023年5月19日（金）～21日（日）

## 参加者

**G7メンバー**：日、伊、加、仏、米、英、独（議長国順）の7か国首脳  
並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長

**招待国**：豪州、ブラジル、コモロ（アフリカ連合（AU）議長国）、クック諸島（太平洋諸島フォーラム（PIF）議長国）、インド（G20議長国）、インドネシア（ASEAN議長国）、韓国、ベトナム（※別途ゲストとして、ウクライナも参加。）

**招待機関**：国連、国際エネルギー機関（IEA）、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行、世界保健機関（WHO）（オンライン参加）、世界貿易機関（WTO）



議題	出席国
5月19日（金）	
1) 分断と対立ではなく協調の国際社会へ／ <b>世界経済</b>	G7メンバー
2) ウクライナ	G7メンバー
3) 外交・安全保障	G7メンバー
5月20日（土）	
4) パートナーとの関与の強化（グローバル・サウス、G20）	G7メンバー
5) 経済的強靱性・経済安全保障	G7メンバー
6) 複合的危機への連携した対応	G7メンバー、招待国・機関
グローバル・インフラ投資パートナーシップ（PGII）サイドイベント	G7メンバー、招待国の一部、民間企業代表
7) 持続可能な世界に向けた共通の努力	G7メンバー、招待国・機関
5月21日（日）	
8) ウクライナ	G7メンバー、ウクライナ
9) 平和で安定し、繁栄した世界に向けて	G7メンバー、招待国、ウクライナ

## 全体構成

首脳宣言（コミュニケ）本体は以下のセクションで構成

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1 前文              | 1 2 食料安全保障                                  |
| 2 ウクライナ           | 1 3 保健                                      |
| 3 軍縮・不拡散          | 1 4 労働                                      |
| 4 インド太平洋          | 1 5 教育                                      |
| 5 世界経済・金融・持続可能な開発 | 1 6 デジタル                                    |
| 6 気候              | 1 7 科学技術                                    |
| 7 環境              | 1 8 ジェンダー                                   |
| 8 エネルギー           | 1 9 人権、難民、移民及び民主主義                          |
| 9 クリーンエネルギー経済     | 2 0 テロリズム、暴力過激主義及び国際的な組織犯罪への対応／法の支配の堅持／腐敗対策 |
| 1 0 経済的強靱性・経済安全保障 | 2 1 地域情勢                                    |
| 1 1 貿易            |   |

## 前文におけるAI関連部分

前文において、G7首脳がG7メンバー国及びG7外のパートナーと取組むことを決意する内容として、自由で開かれたインド太平洋の推進、SDGsの実現などともに、AIガバナンスについて以下の通り記述。

- 我々の共有する民主主義的価値に沿った、「**信頼性のあるAIという共通のビジョンと目標**」を達成するために、**包摂的なAIガバナンス及び相互運用性に関する国際的な議論を進める。**

## 本文におけるAI関連部分

- AIガバナンス及びAIガバナンスの枠組み間の**相互運用性に関する国際的な議論の重要性**を強調。デジタル・技術大臣会合で承認された「**AIガバナンスの相互運用性を促進等するためのアクションプラン**」を歓迎。
- **生成AIの機会と課題を早急に把握する必要性を認識**し、OECDやGPAIにおける取組を奨励。**関係閣僚に対して、生成AIに関する議論のために、包摂的な方法で、OECDやGPAIと協力しつつ、G7作業部会を通じた、広島AIプロセスを年内に創設するよう指示**。この議論には、**ガバナンス、知的財産権保護、透明性促進、偽情報への対策及びこれらの技術の責任ある活用**といったテーマを含み得る。

- G7広島サミットにおいて、デジタルについて、G7首脳は、
  - ・G7の価値に沿った生成系AIや没入型技術のガバナンスの必要性を確認するとともに、
  - ・**特に生成系AIについては、「広島AIプロセス」として担当閣僚のもとで速やかに議論させ、本年中に結果を報告させることとなった。**
- これを受けて、総務省において、関係省庁（デジタル庁・経済産業省）と連携し、**5月30日（火）に、広島AIプロセスを立ち上げ、第1回の作業部会を実施。**

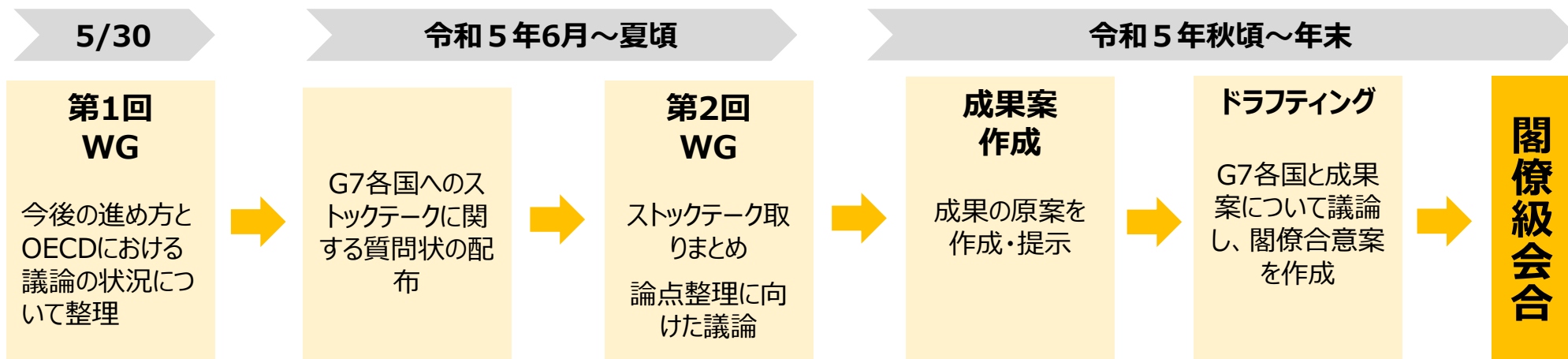
## 検討体制

名 称 : G7 WG for Hiroshima AI Process

構成員 : G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合準備会合（AIパート担当）各国代表

※OECD等のAI専門家の知見も活用し検討を実施

## 今後の進め方（イメージ）



※作業部会、閣僚会合とも必要に応じて、オンライン方式やメールベースのヒアリングも活用。